

☆紀北町立三船中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

三船中学校区は、紀北町の農山村部に位置しており、少子高齢化・過疎化が進んでいます。子どもを取り巻く状況として、複雑な問題を抱える家庭状況等を背景として、自分に自信が持てず、身近な人との人間関係を構築する力が育っていなかったり、自尊心が十分に高められていなかったりする子どもがいます。

また、地域内には、就職先が少なく、通学可能圏内に大学がないほか、選択できる高校も限られています。子ども達が、自己の将来に夢を持ち、キャリアをデザインする力や学習に取り組む意欲等を高めていくことが難しい状況にあります。さらに、10年前、紀北町では大水害を経験している等、自然災害に対する不安が大きいこともあり、将来自分が育った地域に住みたくないとする子どももいます。

そこで、子ども支援ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）では、ここに暮らすすべての子ども達が、「教育的に不利な環境のもとにある」と捉えて、子どもに対する大人の理解や係わりを一層深め、時には一緒になって考えられるような活動の充実をめざしました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 地域の自然や産業にかかわる体験学習（地域への理解と愛着等を深める活動：小学生対象）

船津小学校の校区には、海・山・川等の豊かな自然とそれを活かした産業があります。そこで、ネットワークでは地域の河川を学習の場として活動をすすめ、最後は、船津川の下流域にある汽水湖（白石湖）と、そこで営まれている珍しいカキ養殖（地場産業）についての体験学習を、養殖業者の支援のもと実施しました。

子ども達は、馴染みのある船津川が、河口では汽水湖となり海につながっていることを知るとともに、水産資源活用の工夫や地域の人々の知恵に触れることができました。

また、上里小学校周辺には米や野菜をつくる農家があります。そこで、ネットワークでは、子ども達が、身近な自然や地域への理解を深めることを目的として、地域住民の支援のもと、米づくりや野菜づくり等、種々の農業に関する体験学習を実施しました。子ども達は、多くの大人の見守りや声かけ、支援を得ることで、自信を持って積極的に取り組むことができました。



カキの養殖体験



米の精米体験

(2) 防災教室（自己効力感等を高める活動：中学生対象）

自分に自信が持てず、自己の将来に夢を描くことができない等の子どもの課題に対して、学校・家庭・地域が一体となった防災への取組を実施し、子どもの出番や活躍の場を創出することで、自己効力感を高めることをめざしました。第一回目は、避難訓練とともに災害時に自他の命を守る行動等についての学習を実施しました。第二回目は、専門業者や町役場の支援のもと、被災時、配慮が必要とされる人々のための設備設置体験に、中学生と住民が一緒になって取り組みました。第三回目は、災害時の疑似体験を目的に、京都市民防災センターへのふれあい遠足を実施しました。中学生は、保護者や住民と一緒に「地震体験」「強風体験」等の学習を行うことで、「防災に対する意識がさらに高まった」等の感想を持ちました。その後、中学生が自己の将来に夢を持ったり、人権感覚を高めたりするために、立命館大学国際平和ミュージアムとキャンパスの見学を行い、帰路につきました。



避難所の設置体験



ふれあい遠足

◆実践を振り返って

ネットワークでは、地域に対する理解や愛着を深めることをねらいとして、小学生に対しては、地域の自然や地場産業に係わる体験活動を実施しました。そして、中学生に対しては、地域の大人から信頼され大切にされていることや人の役に立っていることを実感し、自信や学習への意欲を高めていけるよう、より多くの住民が参加しやすい防災等の活動を実施しました。活動の実施を通じて、幼いころ、自宅の1階部分が水没する等の大きな災害を経験した中学生が、「本当に頑張らないといけないと思いました」と語る場面もあり、子ども達の地域貢献への意欲や自己効力感等が高まる活動となったことを振り返っています。しかし、解決すべき多くの課題は依然として残されています。また、住民総がかりでも改善できない課題があることを踏まえ、町や県等との連携・協働を深めながら、子どもの自己実現を支援する実効性のある地域づくりについて、調査研究を継続していきたいと考えています。